

# 産禅洞だより

■ 岐阜環境医学研究所・座禅洞診療所  
 ◎ 呼吸器疾患・禁煙治療・漢方相談  
 診察日：月曜・木曜・金曜  
 受付時間：9:00~12:00  
 〒502-0017 岐阜市長良雄総878-16  
 IP Tel: 058-295-9545  
 FAX: 058-296-3903  
 E-mail: zazenoh@ccn.aitai.ne.jp  
 http://zazendoh.town-web.net/  
**第104号 2012.11.1**  
 毎月1回発行 産禅洞診療所 松井英介

「フタバから遠く離れて」

松井英介



その日、突然、その町に住んでいたひとは全員、移住を強いられました。お気に入りのブラウスを、一張羅のスーツを、ダンスの中に残したまま。折に触れて楽しんでいた映画や娘の結婚式のDVDも。

事故から3ヶ月、各家族から選ばれた人びとは、大型バスで、たった二時間の一時帰宅。住み慣れた自宅から持ち帰ることができるものは限られています。おじいちゃん、おばあちゃん、そして、子どもたちの願いを書き留めたメモを手し、朝5:00時、移住先の騎西高校を後にしました。

土台だけ残して、跡形もなく消えた家。そのときまたそこにいた妻は津波にさらわれ行方不明。墓石は倒れ、地藏の小さな首はもげて土の上に。

「水に触ってはだめ」、「ガレキも!」。声が飛んできます。

そっと、花を手向け、手を合わせます。

一見何ごともなかったように、あの日のままの商店街・・・

瘦せた牛が二頭、車が走らなくなったアスファルトの道をゆっくり歩いています。

船橋淳監督は、ある日突然全てを奪われた人びとの日常を一年以上かけて写真取り、私たちに届けてくれました。井戸川克隆町長インタビューを載せた本も出しました。

「フタバから遠く離れて」。このタイトルは、移住したところが250kmも離れた埼玉県加須市だということ以上に、手を触れることもできなくなった「ふるさと」への、人びとの切ない想いを表しているのではないのでしょうか。

双葉町の人びとに今一番必要なものは、放射性物質に汚染されていない「新しい双葉町」だと私は思います。そこには、慣れ親しんだ隣近所の人びとがいます。幼馴染がいます。誇りをもって働く場があります。山や川や海で、元気に遊ぶ子どもたちの声が聞こえます。

「新しい双葉町」つまり「町まるごと移住」を実現するには、受け入れ地の人びとの人間らしい暖かい心が不可欠です。そして、「ふるさと」を奪った東電・日本政府に、移住のための基金を準備させなければなりません。

「集団移住の権利を保障する法」成立のために力を合わせましょう。